

Nostalgic Hero

Impressive Classic Car Magazine

ノスタルジックヒーロー

TOP ARTICLE ● 特集 *The Revered Fairlady Z*

フェアレディZへの慕情

Vol. 171

HS30ダットサン240Z サファリリースペック / PS30フェアレディZ432 / S30フェアレディZ
HS30フェアレディ240ZG / S30フェアレディZ-L / E-S130フェアレディZ Tパーラーフターボ2シーター

注目記事

ビンテージギャラリー

カラス / 浮谷東次郎spl.

「50年」の時を経て現代によみがえった名車 Rocky 3000GT

ハコスカ & ケンメリ GT-R BROS. in 函館

ハコスカGT-Rでアメリカ大陸を走破 グレートレース2015



好評連載

アメリカ発! ニッポン旧車の楽しみ方 フィンランドspl.
【新連載】グッドカー・グッドシーズン 日産フェアレディZ
旧車生活へのいざない P411ブルーバード
あの時代、あのクルマ 1959年編

EVENT

Zカー・コンベンション2015
JCCA 筑波ミーティング・サマー
オートジャンボリー2015
第15回金沢クラシックカーミーティング ほか

10

2015 OCTOBER

●次号は2015年10月31日発売予定です

全日本保護指定
旧車協会 vol.4
Japan Association of Designated Classic Cars Preservation

希代のハイメカを搭載した 破格の4シータークーペ

1960年、東洋工業から発売されたマツダR360クーペは、量産軽自動車初となる4サイクルエンジン、トルクコンバーターを採用。数々のユニークなアイデアを満載し、ミニカーブームの先導車となった。

MAZDA R360 COUPE

●マツダ R360 クーペ

PHOTO: RYOTA-RAW SHIMIZU / 清水良太郎





マツダR360クーベのエンブレムは、前後と左右に装着される。どれも繊細なデザインで、すべて純正オリジナルだ。上は、フロントフードに装着された「MAZDA」の文字と頭文字の「m」をモチーフにしたエンブレム。左上は、リアフェンダに装着された「R360 coupe」のエンブレム。左下は、リアフードの「MAZDA TORQUE DRIVE」のエンブレム。トルクドライブ自体が珍しいため、このエンブレムは大変貴重な。



■ マツダ R360 クーベトルクドライブ(KRBC)

●全長2980mm●全幅1290mm●全高1290mm●ホイールベース1760mm●トレッド前/後1040mm/1100mm●最低地上高180mm●室内長1245mm●室内幅10500mm●室内高1040mm●車両重量400kg●乗車定員4名●最高速度85km/h●登坂能力15°44'●最小回転半径4.0m●燃料消費量(2人乗車の場合)25km/ℓ●エンジン型式BC型●エンジン種類強制空冷4サイクル90度V型2気筒OHV●総排気量358cc●ボア×ストローク80×63mm●圧縮比8.0:1●最高出力16ps/5300rpm●最大トルク2.2kg-m/4000rpm●オイル潤滑方式ドライサンプ●変速機フロア式2速オートマチック(前進2段、後退1段)●最終減速比4.375●燃料タンク容量16ℓ●ステアリング形式ラック&ピニオン●サスペンション前後とも独立懸架トーションラバー●ブレーキ前後ともドラム式●タイヤ前後とも1.80-10-2P ELP●発売当時価格32万円

①丸目2灯のタレ目風ヘッドライトは、ボディからやや奥まっている。オーナーいわく「空冷のリアエンジンで、顔もポルシェに似てます」と溺愛。②広い面積が確保されたリアウインドーはアクリル製。宇宙船のようなスタイルだが、小さなテールフィンのデザインも愛らしい。③書類上は4名乗車だが、キャビンスペースはミニマム。回り込んだリアウインドーはコスモスポーツに通じるデザイン。



MAZDA R360 COUPE

フロントフードの中は、燃料タンク、バッテリー、燃料フィルター&ポンプなどが収められていて、収納スペースはほとんどない。



⑥フロントの助手席側前方に取り付けられているのは、燃料フィルターと燃料ポンプで、ここからリアに搭載したエンジンに燃料を送っている。⑦燃料タンク上部の給油口のキャップには、燃料残量を確認するためのゲージが付く。



④フロントウインドーのワイパーは、左右のアームをリンケージで連結して作動させる仕組みとなっている。⑤大きめの三角窓により、走行風を取り込んで快適にドライブできる。サイドウインドーのガラスとサッシは、クーペスタイルに合わせた独特の形状になっている。



ヘッドライトを点灯すると、モール上の小さな凸部もぼんやり光る。愛らしいR360クーペらしい演出で、車幅を認識するのに役立つ。



純正ホイールにキャロルのカバーを装着。渾身のポリッシュでピカピカ。タイヤはエコピアで、前後とも135/80-10を装着。トーションラバーサスペンションの高利きショックアブソーバーを分解しOH。ピストンオリフィスを小さく加工し減衰力をアップしている。



1960年に発表された軽4輪のマツダR360クーペは、それまで3輪トラックのメーカーだった東洋工業が、乗用車の生産に乗り出し、飛躍するきっかけになった1台だ。

当時は、58年に発売されたスバル360が好調なセールスを記録。その対抗馬として開発されたのがマツダ360クーペだ。その意気込みは大変なもので、量産軽乗用車として初となる4サイクルエンジンとトルクコンバーターを採用している。また、車高の低いスマートな超軽量クーペボディをはじめ、画期的なトーションラバーサスペンションなどが採用されていた。

特徴的なエンジンは、強制空冷4サイクル90度V型2気筒OHVというレイアウト。排気量は356ccで、最高出力16ps、最大トルク2.2kg・mというもので、性能的には2ストロークの軽自動車と同程度だ。ただし、量産の軽自動車用エンジンとは思えない手の込んだ造りとなっている。まず、オイルパン、クラッチハウジングにマグネシウム合金を採用し、クラッチケース、タイミングカバーにはアルミ合金を使い、徹底した軽量化が図られた。さらに、オイル循環系にドライサンプ方式を採用するなど、意欲作となっていた。

このR360クーペの発表時の価格は、なんと30万円。新聞広告には、「大量生産によるわが国で一番安い乗用車」と大々的にうたっていた。もちろん、他にも「ソフトなシート、明るいキャビン」、「スマートなヨーロピアンスタイル」、「すばらしい機動性と安定性」、「丈夫なユニットボディ」など、数々の特徴が紹介されていた。

今回紹介するR360クーペは、その中でも貴重なトルクコンバーターの



⑨リアエプロン中央のキーシリンダーは、エンジンフードのロック用。その横にある穴は、クランク棒の差し込み口で、エンジンルームの右側に装備されたジャッキ棒(兼クランク棒)を使用する。⑩リアフード上の丸い物体は、エンジンのダイナモリーが干渉するための苦肉の策で、ナンバー灯になっている。⑪エンジンルームのキャビン側にある給油口はトルコンオイル用で、右側にあるのがエンジンオイル用の給油口。V型エンジンの上側にあるのがキャブレターというレイアウト。



⑬真後ろから見たエンジンルーム。90度V型2気筒エンジンは、ヘッドカバー、クランクケースがアルミ製で、オイルパン、クラッチハウジングがマグネシウム製だ。⑭純正デジを改造し、フルトラ化。黒い部分が無接点タイプのフルトラユニットだ。⑮車体番号は、「KRBC-76710」。ただし、打刻の際に間違えたようで、「KPBC」の「P」を「X」で消し、その上側に、旧マツダマークと「R」を打ち直してある。珍しいエラー車体番号で、希少価値がある!

樹脂製のケースに収められた100km/hまでのスピードメーター。左奥には、トルコンパイパー用の油温計が装着されている。



⑯トルクドライブ用のシフトレバー。ノブの上にあるボタンを押ししてセレクトする。右上がロー、右下がハイ、左上がリバースだ。その下のレバーは、トルコンブレーキ用で、長い下り坂などで、エンジンブレーキが必要な際にレバーを引く。⑰今は取り外してある身障者仕様のアクセセル&ブレーキレバー。前がブレーキ、後ろに倒すとアクセセル。



⑱視界を広く確保できるラップラウンドウィンドーを採用。インパネ回りは超シンプルなメーター。助手席側に装着されているラジオは、純正オプションではなく、他車の流用とのこと。⑲人間工学から設計されたというシートは、ウレタンフォームのやわらかいクッションを採用。



リアシートを外すと現れるミッションオイルの給油口。助手席足元のコーションステッカーによると、6000kmごとに点検とある。

OWNER'S VOICE

ミッションがロックして、「アチラの世界」が一瞬見えました

「購入して1年ぐらいの時にイベントに出かけました。国道2号バイパスに上がり、70km/hで順調に走行していた時、突然「ガン！」という音とともに、リアタイヤが左右ともロック! バイパス上でスピニングして、左側のボールに当たり、その反動で右側に飛ばされ、その時はアチラの世界が一瞬見えました。原因は、ギアの二重噛みでロックしたようです。そこで、ローラーベアリングが入るギアを設計、製作して復活させました」と富松さん。現在は絶好調だ。

貴重な当時の新聞をオークションでGET。「ドライブに行きたい」と、姉妹にもR360クーペは好評。今後はクーラーを装着し、奥さま仕様に進化!



富松拓也さん(岡山県)

2速AT搭載車で、身体障害者用に発売された1台。現在は取り外してあるが、シフトレバーの隣に、手動ブレーキのレバーが装着されていたそうだ。「ボディはフルレストアされていてキレイでしたが、走る方がダメダメでした。エンジン、ミッション、トルクコンバーター部などもフルOHと同時に改良を施して、カタログスペック通り、85km/hで走れるように仕上げています」とオーナーの富松拓也さん。エンジンはノーマルながら、ドライサンプのオイルポンプを改造し、吐出量をアップ。点火系は無接点式のフルトラに改良することで強化。ミッションは、内部のプッシュ部をすべてローラーベアリングが入るようにギア類を新たに製作し、シール類もすべて交換するなど、手塩にかけて仕上げている。ここまで快調なR360クーペのトルコン車は、全国を探してもこの1台だけだろう。